国際社会に向けて、英語で発信する力を育てるには

1. テーマ

国際社会に向けて、英語で発信する力を育てるには

2. 動機と仮説

〈動機〉

中学生のとき、「小学校から英語教育が始まることに賛成か反対か」という英作文の問いに対し、私は、日本人の英語力が同じ非英語圏の中国や韓国、台湾よりも低く、英語教育をもっと強化すべきだと聞いたことがあったため賛成と答えた。そのとき逆に反対と答える理由が分からず、気になって解答例を見てみると、「外国人と交流する中で、自国の文化を発信することは不可欠。外国語や異文化を学ぶ前にまずは日本のことをしっかり理解するべきだ」というような理由で反対だと書かれていた。その意見を見て納得したが、国際社会で発信するには日本文化と外国語のどちらを優先的に学ぶべきなのか疑問に思ったので、今回調査することにした。

〈仮説〉

外国語が流暢でなくても、発信することについてしっかり理解していれば、説得力のある発信ができるはずだから、日本文化について優先的に学ばせるべきではないだろうか。

3. 調査方法

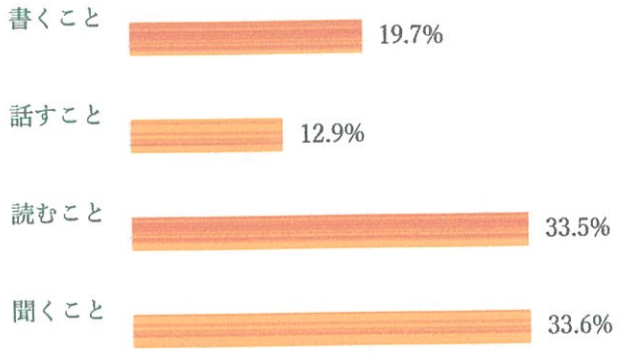
①現状の日本人の英語力について調べる
　⇒私たちが伸ばすべき課題を見つける

②中国や韓国、台湾の英語教育を調べ、日本と比較する
　⇒同じ非英語圏なのに日本の英語力が劣っている原因を見つける

③ジョシュアさん（ブラジル出身の英会話教室講師）にインタビューをする
　⇒英語が母国語でないなか英語を身に付け、英語を教える立場となり、また自国以外で働いている人の経験に基づいた意見を知る

４．結果

①日本の高校３年生のうち、日常生活で使える英語力をもっている人の割合（４技能別）



CEFR　A2 以上に相当する得点者の割合
※文部科学省「平成２９年度英語力調査結果（高校３年生）の概要」をもとに作成

②中国、韓国、台湾、日本の小学校における英語教育の比較

	中国	韓国	台湾	日本
初等教育段階における英語教育の導入時期	２００１年	１９９７年	２００１年	２０１１年
英語教育の開始学年	小学校第３学年	小学校第３学年	小学校第３学年	小学校第５学年 ※英語活動は３学年から
小学校における英語教育の授業特徴	週４回以上 ・３～４年は短時間授業（３０分）がメイン ・５～６年は短時間授業と長時間授業（４０分）の混合、長時間授業は週２回以上	・3～4 年は週２コマ ・５～６年は週３コマ ※１コマ４０分	・週２コマ ※１コマ４０分	・週１コマ ※１コマ４５分
小学校における英語教育の目標	・コミュニケーション重視	・日常生活で使用する基礎的な英語を理解し、表現する	・間違いを恐れずに話す	・４技能に関する技術の総合的な育成

※文部科学省「小学校英語の現状・成果・課題について」をもとに作成

③ジョシュアさんにインタビューした記録の一部

・英語教育の早期化が進められていることについて、意見を教えてください。

—「私は賛成です。臨界期という言葉があるように、幼いころは新しい言葉を学びやすいからです。でも、文法などの難しいことは教えなくていいと思います。ゲームをしながら、会話をしながら英語を使うと、子どもはスポンジのようにどんどん吸収して、自分で伝えられるようになっていきます。また、外国語を学ぶと、ただ日本で暮らしているだけではまず生まれない外国の考え方を知ることができ、その子自身の世界が広がっていきます。英語を話せるという自信も、自分にとって大きな武器となるでしょう。」

・国際社会で日本文化を発信するために、まず日本のことについて学ばせるべきだという意見についてはどう考えますか？

—「たしかに、自国について知っていることは重要だと思います。しかし、必ずしもそれを学ぶことを外国のことを学ぶより優先させなければいけない、ということではありません。私の生徒で、アメリカやヨーロッパなどに行った人たちの多くが、帰国後、『海外にいる間、日本が恋しかった。離れてはじめて日本のよさに気づいた。』と話してくれます。外国語や異文化を学び、日本とは違うものをたくさん見ることで、当たり前に感じていた日本文化のすばらしさに気づくこともあるのです。

それに、大事なのは知りたいと思う気持ちです。子どもの頃、アニメのキャラクターや、ヒーローの技の名前をたくさん覚えていた、という人は多いと思いますが、日本の文化遺産を覚えていた、という人はほとんどいないでしょう。『ポケットモンスター』のキャラクター全部より、日本の文化遺産の方がはるかに数が少ないのに、覚えようとしない。それは、興味がないからです。だから、日本について学ばせるのではなく、日本について興味をもてる環境を作ることが大事だと思います。」

「英語で日本文化を発信するということにおいて、英語はただの手段、道具でしかありませんが、その道具をいかに使いこなせるかが大事になってきます。例えば日本語でも、普通の景色を見て『すごい！！』という人がいるでしょう。その人は、本当にすごい景色を見たとき、どう表現すると思いますか？きっと、同じ「すごい」という言葉でしかその感動を表せないでしょう。本当は感動の大きさに差があるのに、言葉という道具を自分のものにできていないから、それを伝えられないのです。英語でも同じです。『wonderful』しか知らない人に、いくら日本文化を説明されても、本当はひとつひとつ違った魅力があるのに、全部同じようなものだと感じてしまいます。『wonderful, marvelous, amazing・・・』これらも少しずつ意味が違います。それぞれの感動に合った言葉を使うことで、あなたの伝えたいことが伝わるのです。使える語彙を少しでも増やすことがおすすめです。」

5．考察

①より、４技能のうち「読むこと」「聞くこと」に比べて「書くこと」「話すこと」の得点が低いことが読み取れる。つまり、国際社会で活躍するために不可欠である「発信力」に課題があることがわかる。しかし、英語での発信の「道具」となる英語か、「中身」となる自国についての知識、どちらを重視すべきかはここからはわからない。

②より、中国や韓国、台湾に比べ、英語教育の導入が遅れていた日本は、開始時期も遅いうえに、授業時数が少ないなど、英語教育に充てられる時間が短いことが分かる。また、英語教育の目標においても、他の３国は日本ほどは技術を重視せず、日常生活で気軽にコミュニケーションをとれるような使える英語を教えていると感じた。やはり、英語発信の道具である日本人の英語力を伸ばすには、まずはこの３国と並べるまでに英語教育を見直し、発展させるべきだと思った。

そして、③からは、英語教育の早期化をすることによって、英語が学びやすくなり、いろいろな見方ができるようになるなど、子どもにとって良い効果が得られるとわかる。また、外国語や異文化について学ぶことが、日本文化を学ぶことにもつながるため、英語の早期化は、幼いころから発信力の道具だけでなく中身をも身に付けられる良い手段だと思った。

6．まとめ

結果として、日本について学ぶことと、外国について学ぶこと、どちらかの方が大事というわけではなく、どちらも重要だとわかった。

例えば修学旅行でも国内と海外とがあるが、国内では日本文化を学ぶだけでなく、外国人観光客との交流などで外国語での発信力が伸ばせるし、海外では、外国語や異文化について学ぶ中で、改めて日本に興味をもつことができる。だから、教育においても、小学校の英語教育を強化すればするほど、子どもたちの日本文化離れが進むということではない。日本人の英語力を上げるため、そして自身の世界を広げて客観的に日本の魅力を発見するためにも、英語教育の早期化は有効であるといえる。

そして、今回のテーマである英語での発信力を伸ばすためには、「英語で日本文化について学ぶ」ことが効果的だと考えた。日本文化をいかに英語で表現するか考えることで、日本文化の知識だけでなく、英語の語彙力も育てることができるからだ。この研究を通して、日本文化をはじめとする、学ぶべきものを英語「で」学んでいきたいと思った。英語自体、今は日本語で学んでいるが、英語を英語で学べるように、つまり英語でコミュニケーションをとりながら英語を学べるようになれば、英語力は伸びるはずだ。この考えを今後の英語学習に活かし、国際社会で役立つ英語を身に付けていきたい。